

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校 ESP エンタテインメント東京
設置者名	学校法人イーエスピー学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養専門課程	音楽アーティスト科	夜・通信	1,788 時間	160 時間	
	声優芸能科	夜・通信	1,712 時間	160 時間	
	音楽芸能スタッフ科	夜・通信	1,584 時間	160 時間	
	ギタークラフト科3年制	夜・通信	1,992 時間	240 時間	
	ギタークラフト科2年制	夜・通信	737 時間	160 時間	
	管楽器リペア科	夜・通信	1,296 時間	160 時間	
	ピアノ調律科	夜・通信	1,506 時間	160 時間	
	楽器技術研究科	夜・通信	508 時間	80 時間	
(備考) ※各科の中に存在するコースのうち、実務経験のある教員等による授業科目の授業時間数が最小のコースの時間を代表として表記しました。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校ESPエンタテインメント東京
設置者名	学校法人イーエスピー学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.esp.ac.jp/gakuen/information/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	楽器業界事業会社 取締役	2023年3月 23日～2026 年3月22日	業界からの情報提 供・アドバイス
非常勤	前 学校法人 部長	2023年3月 23日～2026 年3月22日	学校経営アドバイ ス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校ESPエンタテインメント東京
設置者名	学校法人イーエスピー学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> シラバスの作成については、前年度シラバスを基に、教育課程編成委員会による外部の意見を取り入れながら教務課と教員が学内教務会議を開催し、次年度の編成方針、科目の新設・改廃を決定します。 シラバス編成方針を教務課と科目担当教員が確認した上で、科目担当教員がシラバス案を作成、教務会議にて教務課が内容を確認したのちに評議員会、理事会で承認し、教育課程編成委員会へ報告します。 シラバスは年度当初に本校ホームページに公表するとともに、年度始のオリエンテーション等において学生に周知し、教務課から授業概要、到達目標、成績評価の方法等の説明を行います。さらに授業冒頭において科目担当教員から履修メッセージを含め授業概要の詳細な説明を実施しています。 	
授業計画書の公表方法	https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。																				
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)																				
<p>●成績評価、修得認定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績評価を適切に実施するにあたり、「イーエスピー学園成績評価に関する内規」によって以下のように規定しています。 																				
評価	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">合格</th> <th colspan="2">不合格</th> </tr> <tr> <th>S(秀)</th> <th>A(優)</th> <th>B(良)</th> <th>C(可)</th> <th>D(不可)</th> <th>E(履修放棄)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評点</td> <td>90点以上</td> <td>80点以上</td> <td>70点以上</td> <td>60点以上</td> <td>60点未満</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	合格				不合格		S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	D(不可)	E(履修放棄)	評点	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	60点未満	-
合格				不合格																
S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	D(不可)	E(履修放棄)															
評点	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	60点未満	-														
<ul style="list-style-type: none"> 年度内の前後期に行われる2回の試験評価(筆記、実技)、及び平常点(授業内で行われた小試験、レポート提出、出席率等)から総合的に成績評価を行い合格判定(S, A, B, C)の履修科目を修得認定とします。不合格判定(D, E)の履修科目は再試験、補習授業の受講、補講レポートの提出等によって再度成績評価を行い、合格判定となれば修得認定とします。 全ての履修科目において出席率が80%以上であることが成績評価の要件となります。80%未満であった場合には出席率に応じた補講レポートの提出、補習授業の受講等によって不足分の出席を充足するものとします。 																				
<p>●進級判定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績評価が、履修科目全てにおいて合格判定(S, A, B, C)であることが進級判定の要件となります。 上記に定めのない事項については、授業担当講師と教務課が協議の上、適正に評価を行います。また最終的な進級判定は教務会の議を経て学科責任者がこれを行います。 																				

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本校では成績管理を厳格適正に実施するために成績評価の方法を定め、学生個人のGPA(Grade Point Average)を算出し、客観的な指標として活用しています。また、学科ごとのGPAに基づく成績の分布状況を年度末に作成し、教職員が把握することで学生に対する学習指導に活用しています。

成績評価は、科目によって6段階で行い、評価基準は下記表の通りとなります。

6段階評価…講義・実習科目

評価	合格				不合格	
	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	D(不可)	E(履修放棄)
GP	4	3	2	1	0	

GPA 制度について

成績評価とGPの対象は上記6段階評価の表の通りです。

学習の習熟度合を測定する指標としてのGPAを算出する際の計算式は、以下のとおりです。

$$(4 \times S \text{ の習得単位数}) + (3 \times A \text{ の習得単位数}) + (2 \times B \text{ の習得単位数}) + (1 \times C \text{ の習得単位数})$$

6段階評価の履修科目全ての単位数合計

学則に定める「授業時数の単位数への換算」により、年間の習得単位数は講義科目…15単位時間=1単位、実習科目…30単位時間=1単位として計算しています。上記計算式により算出したものを個人GPAとし、当該学科・学年の個人GPAを昇順に並べて順位付けを行い、学年内の順位を算出します。その順位により、下位4分の1を算出しています。そのため、学科、学年ごとに、下位4分の1のGPAポイントは異なります。この算出方法は計算式と共に広く公表しております。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は成績評価に基づいた「卒業判定の要件」と、履修を通して修得を期待する能力、育成する人材像を示した「教育目標に定める人材育成」に基づき定めています。</p> <p>【卒業判定の要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年度ごとの前期末、後期末に行われる試験点数、及び平常体（出席率、小試験、レポート提出等）から総合的に算出される成績評価が、履修科目全てにおいて合格判定（S、A、B、C）となっていること。 ・ 全ての履修科目において出席率が80%以上であること。80%未満の場合は出席率に応じた補講レポートの提出、及び補習授業の受講等によって不足分の出席を充足していること。 <p>【教育目標に定める育成人材像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エンタテインメントに関する高度かつ最新の知識と技術を習得し、感動を創造できる人材であること。 ・ 革新的事象に対する柔軟な受容を行え、新たな時代に対応出来る知的な好奇心を持った人材であること。 ・ グローバル化の中で多様な文化や価値観を尊重することができ、多角的な視点を持った人材であること。 <p>以上を兼ね備え、履修科目全ての成績評価が合格判定である学生に称号を授与します。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校ESPエンタテインメント東京
設置者名	学校法人イーエスピー学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.esp.ac.jp/gakuen/information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.esp.ac.jp/gakuen/information/
財産目録	https://www.esp.ac.jp/gakuen/information/
事業報告書	https://www.esp.ac.jp/gakuen/information/
監事による監査報告（書）	https://www.esp.ac.jp/gakuen/information/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	音楽アーティスト科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間/単位	390 単位時間/単位	60 単位時間/単位	1,418 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
	1,868 単位時間/単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
560人		317人	40人	37人	46人	83人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照。 URL： https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2. 及び3. を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。授業終了後の放課後の時間帯には、教室を開放してスタジオとして練習可能な環境を用意している。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
148人 (100%)	8人 (5.4%)	18人 (12.2%)	122人 (82.4%)
<p>（主な就職、業界等） プロのアーティストとして活動するために、音楽芸能プロダクションやレコードメーカーとの所属契約を目標としている。 就職実績としては、楽器店、リハーサルスタジオ等音楽業界、他の一般業界。</p>			
<p>（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的に行う。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） エンタテインメント業界でミュージシャン、歌手などのプロフェッショナルとして活動するために必要な技術・知識の習得。 Word 文書処理技能認定試験、Excel 表計算処理技能検定等の受講が可能。</p>			
<p>（備考）（任意記載事項） 学科の特色としてプロのアーティスト活動を目指す学生が多く、積極的に就職活動を行う学生は少ない。フリーランスのミュージシャンや音楽講師になる者が多く、そのままアルバイトなど一時的仕事を続ける者が多い。その中でも就職を希望してCSSを訪れる学生に対して就職指導をしている。</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
331人	56人	16.92%
<p>（中途退学の主な理由） 進路変更、経済事情、健康上の理由、学業不振（長欠者）。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。 出席率、および欠席が目立つ学生へのフォローについて毎月各学科教務から教務部長へ報告し、保護者等へ連絡など対応を都度検討している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	声優芸能科				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 1,712 単位時間/単位	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼		592 単位時間/単位	52 単位時間/単位	1,410 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
		2,054 単位時間/単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		35人	7人	7人	20人	27人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/	
成績評価の基準・方法	
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2.及び3.を参照。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照。	
学修支援等	
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 授業終了後の放課後の時間帯には、教室を開放してレッススタジオとして練習可能な環境を用意している。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	15人 (100%)
（主な就職、業界等） モデルや俳優、声優などを目指す学科であるため、就職活動を行う学生は少ない。			
（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的で開催。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） エンタテインメント業界で歌手、ダンサー、俳優、モデル、声優として活動するために必要な技術・知識の習得			

(備考) (任意記載事項)

学科の特色としてプロダクション等への所属を目指す学生が多く在籍しており、就職を希望する学生は少ないと思われる。その中でも就職を希望してCSSを訪れる学生に対して就職指導をしていく予定である。

卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)については、旧芸能タレント科(2023年度学科名変更)の卒業生の人数を記入。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40人	7人	17.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済事情、学業不振(長欠者)。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。 出席率、および欠席が目立つ学生へのフォローについて毎月各学科教務から教務部長へ報告し、保護者等へ連絡など、対応を都度検討している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		文化・教養専門課程	音楽芸能スタッフ科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1,712 単位時間/単位	1,266 単位時間/単位	64 単位時間/単位	968 単位時間/単位	単位時間/単位
			2,298 単位時間/単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
460人	268人	25人	28人	22人	50人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2.及び3.を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 早期入社等についてもレポート提出によって出席と同様の扱いとするなど、対応をしている。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
133人 (100%)	1人 (0.8 %)	101人 (76.9 %)	31人 (23.3%)
（主な就職、業界等）就職実績としては、主に音楽、音響、芸能、照明、イベント業界、他の一般業界。 有名なプロダクションを始め、エンタテインメント業界における有名企業への就職実績あり			
（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的に行う。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。			

<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>エンタテインメント業界でスタッフ、音響、照明、楽器、イベント制作等の分野においてプロフェッショナルとして活動するために必要な技術・知識の習得。</p> <p>Pro Tools 技術認定試験、秘書検定、ビジネス実務マナー検定、映像音響処理技術者資格認定試験、ビジネス著作権検定、舞台・テレビジョン、色彩検定等の受講が可能。</p> <p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
269 人	39 人	14.5%
(中途退学の主な理由)		
進路変更、経済事情、健康上の理由、学業不振(長欠者)。		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。		
出席率、および欠席が目立つ学生へのフォローについて毎月各学科教務から教務部長へ報告し、保護者等へ連絡など、対応を都度検討している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	ギタークラフト科 3年制	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 2,568 単位時間/単位	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼		1,888 単位時間/単位	100 単位時間/単位	4,240 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			6,228 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	87人	16人	9人	0人	9人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2.及び3.を参照。
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照。
学修支援等
(概要) 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 早期入社等についてもレポート提出によって出席と同様の扱いとするなど、対応をしている。 本学科については、作業の進行が速い学生については、何本でもギター製作が可能となっており、一部特殊な材、パーツを除いた製作に必要な材は無償で支給される。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29人 (100%)	3人 (10.3%)	19人 (65.5%)	7人 (24.1%)
(主な就職、業界等) 主に楽器製造、楽器販売、楽器修理等、楽器業界。他の一般業界。			
(就職指導内容) 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的に行う。CSS (キャリアサポートセクション)を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。			

<p>(主な学修成果 (資格・検定等)) 楽器製作、楽器修理、アンプ・エフェクター等周辺機器製作、楽器演奏技術、3D CAD、illustrator 等の技術・知識の習得。</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85 人	5 人	5.88%
<p>(中途退学の主な理由) 進路変更、健康上の理由</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。 出席率、および欠席が目立つ学生へのフォローについて毎月各学科教務から教務部長へ報告し、保護者等へ連絡など、対応を都度検討している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	ギタークラフト科 2年制	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 1,712 単位時間/単位	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼		181 単位時間/単位	72 単位時間/単位	1,459 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1,712 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	20人	5人	2人	0人	2人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2.及び3.を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 早期出社等についてもレポート提出によって出席と同様の扱いとするなど、対応をしている。 本学科については、作業の進行が速い学生については、何本でもギター製作が可能となっており、一部特殊な材、パーツを除いた製作に必要な材は無償で支給される。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	5人 (41.7%)	6人 (50%)	1人 (8.3%)
（主な就職、業界等） 主に楽器製造、楽器販売、楽器修理等、楽器業界。他の一般業界。			
（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的に行う。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。			

<p>(主な学修成果 (資格・検定等)) 楽器製作、楽器修理、アンプ・エフェクター等周辺機器製作、楽器演奏技術、3D CAD、illustrator 等の技術・知識の習得。</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20 人	2 人	10%
<p>(中途退学の主な理由) 進路変更、経済事情、健康上の理由、学業不振 (長欠者) 。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。 出席率、および欠席が目立つ学生へのフォローについて毎月各学科教務から教務部長へ報告し、保護者等へ連絡など、対応を都度検討している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	管楽器リペア科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間/単位	300 単位時間 /単位	単位時間 /単位	2,052 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,352 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
100人	79人	4人	6人	9人	15人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2.及び3.を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 早期入社等についてもレポート提出によって出席と同様の扱いとするなど、対応をしている。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
37人 (100%)	2人 (5.4%)	29人 (78.4%)	6人 (16.2%)
（主な就職、業界等） 主に楽器製造、楽器販売、中古楽器取扱、楽器修理取扱業等に就職している。			
（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的に行う。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 楽器製作、楽器修理、楽器演奏等に関する技術・知識の習得。			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
77人	4人	5.19%
(中途退学の主な理由) 経済事情、健康上の理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。 出席率、および欠席が目立つ学生へのフォローについて毎月各学科教務から教務部長へ報告し、保護者等へ連絡など、対応を都度検討している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		文化・教養専門課程	ピアノ調律科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1,712 単位時間/単位	258 単位時間/単位	60 単位時間/単位	1,394 単位時間/単位	単位時間/単位
			1,712 単位時間/単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人	37人	2人	13人	4人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2.及び3.を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 早期入社等についてもレポート提出によって出席と同様の扱いとするなど、対応をしている。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	13人 (81.3%)	3人 (18.8%)
（主な就職、業界等） 主に楽器製造、楽器販売、中古楽器取扱、楽器修理取扱業等に就職している。			
（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的に行う。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 楽器製作、楽器修理、ピアノ調律、楽器演奏等に関する技術・知識の習得。 ピアノ調律技能士検定			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40 人	5 人	12.5%
(中途退学の主な理由) 学業不振(長欠者)。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。 出席率、および欠席が目立つ学生へのフォローについて毎月各学科教務から教務部長へ報告し、保護者等へ連絡など、対応を都度検討している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	楽器技術研究科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,712 単位時間/単位	単位時間 /単位	28 単位時間 /単位	508～ 1,684 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			536～1,712 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
10人	8人	6人	1人	0人	1人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2.及び3.を参照。 但し、2.における「●進級判定」に関する事項は1年制の学科のため、考慮しないものとする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 早期入社等についてもレポート提出によって出席と同様の扱いとするなど、対応をしている。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	2人 (66.7%)	1人 (33.3%)
（主な就職、業界等） 主に楽器製造、楽器販売、楽器修理等、楽器業界。他の一般業界。			
（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的で開催。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。			

(主な学修成果(資格・検定等)) 楽器製作、楽器修理、ピアノ調律、アンプ・エフェクター等周辺機器製作、楽器演奏技術、3D CAD、illustrator等の技術・知識の習得。
(備考) (任意記載事項) 本学科は本校の2年制または3年制の学科を卒業した後に進級出来る専攻科である

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
音楽アーティスト科	200,000円	600,000円	700,000円	実習費、施設維持費
声優芸能科	200,000円	600,000円	700,000円	実習費、施設維持費
音楽芸能スタッフ科	200,000円	600,000円	700,000円	実習費、施設維持費
ギタークラフト科3年制	200,000円	600,000円	700,000円	実習費、施設維持費
ギタークラフト科2年制	200,000円	600,000円	700,000円	実習費、施設維持費
管楽器リペア科	200,000円	600,000円	700,000円	実習費、施設維持費
ピアノ調律科	200,000円	600,000円	700,000円	実習費、施設維持費
楽器技術科	200,000円	600,000円	700,000円	実習費、施設維持費
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 本校「学校関係者評価委員会規程」より 第2条 本校は、自己評価結果の客観性・透明性を高め、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とした委員会を置く。 第4条 各委員は委員会において、自らの知見、見識から、教育活動及び学校運営の状況について、自己点検・評価の結果を踏まえ評価を行う。 第12条 関係者委員会は、次の掲げる区分から総務部長が委嘱する委員及び総務部長により構成する。 (1) 各学科関連業界等関係者 各1名以上 (2) 卒業生 1名以上 (3) 地域活動団体または在校生の保護者 1名以上 2 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。 【実施方法】 事前に自己点検・評価報告書を委員の皆様にお渡しし、委員会当日に改めて本校より詳細説明を行う。 委員の皆様には評価シートを配布し、各第項目ごとにご意見等をご記入、ご提出いただき、学校関係者評価報告書を作成する。 報告書は委員の皆様にご確認いただいた後、理事長へ提出し、確認後に本校ホームページに公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
FINE TREE 株式会社	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	関連業界等関係者
新宿日本語学校	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	直接接続している学校等
株式会社竹宝商会	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	近隣企業等
株式会社イー・エス・ピー	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	卒業生
在校生保護者	令和6年4月1日 ～令和7年3月31日	在校生保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.esp.ac.jp/tokyo/info/		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.esp.ac.jp/tokyo/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113310400499
学校名 (〇〇大学 等)	専門学校E S Pエンタテインメント東京
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人イーエスピー学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		110人	91人	115人
内訳	第Ⅰ区分	63人	53人	
	第Ⅱ区分	28人	25人	
	第Ⅲ区分	19人	13人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				115人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	-
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	-	-
「警告」の区分に連続して該当	0人	-	-
計	0人	-	13人
(備考) 「右以外の大学等」には修行年限3年以上の学科コースの人数、「短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）」には修行年限2年以下の学科コースの人数を記入。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	-

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	-
GPA等が下位4分の1	-	0人	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	21人	19人
計	-	21人	24人
(備考) 「右以外の大学等」には修業年限3年以上の学科コースの人数、「短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）」には修業年限2年以下の学科コースの人数を記入。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。